一般社団法人　国宝修理装潢師連盟
文化財保存技術（装潢）伝承者養成等事業の紹介

国宝修理装潢師連盟は、選定保存技術である装潢修理技術の保存団体として、修理技術者の装潢に関する技能の習得と向上を目指し、後継者育成や周辺材料の探求につながる様々な事業を展開しています。
令和４年度に実施した事業の一部をご紹介します。

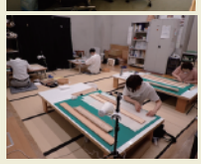
【主な事業】
定期研修会、修理技術者資格制度、インターンシップ、近代絵画の修理ガイドライン作成、古代裂（表装裂）作製、劣化絹の照射方法の改良および作製、紙検査中級研修、補修紙作製研修、指定文化財修理記録データベース作成、間似合紙の確保

定期研修会

将来の修理技術者を養成するため、また啓蒙運動の一端として基礎知識の取得と向上のため研修会を実施。講演、修理事例発表、ポスター発表を行った。
また、この内容をまとめた報告集を作成し、関係者に配布した。

令和４年度　第 26 回定期研修会
テーマ「書の美」
日時：令和４年１１月１８日（金）
　　１２：５５～１８：００
場所：奈良県文化会館
参加人数：３２５名

修理技術者資格制度



資格試験のほか、新入の技術者が受ける新任者研修会、登録審査、技師に昇格するための初級講習会、主任技師試験を受ける者が受講する中級講習会、技師長試験を受ける者が受講する上級講習会を実施した。

国宝修理装潢師連盟修理技術者資格試験
出願者及び合格者数（令和４年度）
　出願者：12 名
　合格者：２名

詳しくは資格制度のポスターをご覧ください。

インターンシップ

文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた大学院生に対し、加盟工房での約４週間のインターンシップを受け入れた。文化財修理が実際に行われている現場を体感し、将来の職業選択に活かすことを目的としている。
令和４年度は京都国立博物館文化財保存修理所内の（株）修美・（株）光影堂・（株）岡墨光堂で実習を実施した。

◎京都市立芸術大学大学院１名、京都芸術大学大学院１名、京都嵯峨芸術大学１名の計３名の学生が参加。
◎技術修得事項として下記を実施。
・修理現場の見学
・糊炊き，疑似本紙補修
・その他各関心による実習
◎報告会（オンライン）
◎報告書の刊行

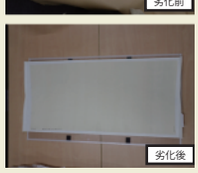
近代絵画の修理ガイドライン作成

修理の機会が増えつつある近代絵画について、今後安全で確実な統一された指針のもとで修理が実施されるよう、ガイドラインを作成する。
令和４年度は東京藝術大学との受託研究として、京都国立近代美術館、京都市美術館にて担当学芸員より作品についての説明および損傷等の問題箇所の共有を行い、状態調査および意見交換を行った。
連盟加盟工房より技師長５名、主任技師４名が参加。
実施内容を報告書として刊行した。

古代裂（表装裂）作製

「文化財における復元織」講習会を鳥居株式会社に委託して開催し、専門家から「紋制作及びデジタル紋図製作用ソフトウェア」の使い方の説明を受け、パソコンで自ら表装裂の紋図を製作する技術を学んだ。
西陣の表装裂関係の工房見学として、廣信織物および金箔加工鳥原商店を見学した。
無地織物の見本織を行い、組織織見本帳に添付し連盟加盟工房へ配布した。

劣化絹の照射方法の改良および作製



絹本絵画の修理に欠くことのできない劣化絹について、より安定的に供給できるよう、従来の別の施設での劣化絹の作製を試行している。株式会社 NHV コーポレーションの EB センターにてこれまでに様々な条件下で照射試験を行った。
令和４年度も照射試験を行い、技術者による評価を実施したところ、概ね所期の目的を達成しており、実用化の目途は立ったと判断した。

紙検査中級研修

高知県立紙産業技術センターの専門職員の指導の下、顕微鏡下での繊維の観察やＣ染色液を用いた検査実習を行い、研修生の観察力向上を目指す。
加盟工房より提供を受けた実際の文化財から得た試料に対し、２名の研修生が繊維種の判定を行った。
検査結果は成績報告書としてまとめ、試料提供を受けた工房へ発行した。

補修紙作製研修

連盟加盟工房の書跡技術者、高知県紙産業技術センター専門職員、高知県手すき紙生産者らを交え、京都国立博物館にて国宝醍醐寺文書聖教の本紙を実見し、鎌倉時代の檀紙を復元し、補修紙へとつなげる会議を行った。
高知県にて、手すき紙生産者と技術者が繊維の製作を行った。抄紙は令和５年度を予定。

参加技術者数：10 名

指定文化財修理記録データベース作成

過去に連盟加盟工房が施行してきた国庫補助事業の情報を集約することで、加盟工房はもちろん、文化庁や関連自治体等が修理情報への円滑なアクセスを可能にすることを目指し、修理報告書のデータベース化を実施する。
平成４年度は、平成元年度までの修理報告書と令和３年度の修理報告書についてのデータベース入力作業を実施した。

間似合紙の確保

修理に必要な手漉き紙は生産者の高齢化、後継者の不在が喫緊の課題となり、質の高い紙の確保が難しくなりつつある。
特に襖の下貼りに欠かせない間似合紙は、質の高いものを供給する生産者が実質１名となっており、供給が間に合わない状況にあった。本事業に於いて後継者の育成や紙漉き道具の確保を行った結果、高知県手漉き和紙協同組合の管理のもと生産体制が整いつつあり、一定量の発注を行う事で安定的供給体制を確立していくものである。
令和４年度は 1,000 枚発注した。